

せたがやの文化財

No.034

編集 世田谷区教育委員会事務局
発行 生涯学習・地域学校連携課文化財係

〒154-0016 世田谷区弦巻3-16-8
Tel 03-3429-4264 Fax 03-3429-4267
<https://www.city.setagaya.lg.jp>

発行日 令和4年3月31日

再生紙を使用しています



都旧跡「世田谷城跡」と豪徳寺



重要文化財大場家住宅 二階座敷



区登録有形文化財
旧清水家住宅書院 外観



同書院 内観

世田谷の歴史と文化財の魅力

世田谷の歴史と文化財を題材にした紹介動画を制作しています。※写真は各動画の一部です

① 「世田谷区の歴史を感じてみませんか～重要文化財「大場家住宅」～」（2分22秒）

② 「区内文化財紹介動画（旧清水家住宅書院）」〔英語版あり〕（2分6秒）

③ 「区内文化財紹介動画（豪徳寺）」〔英語版あり〕（2分59秒）

区内の文化財と商店街をまち歩き感覚で楽しむのはこちら。

「世田谷区内文化財観光街まち歩き動画」〔英語・中国語(簡体字)一部字幕あり〕（14分56秒）

動画は「世田谷デジタルミュージアム」の「文化財記録映画紹介」からご視聴いただけます！

ぜひご覧ください。（令和4年3月31日時点）⇒裏面参照

文化財の保護と修理

～九品仏淨真寺の三仏堂と阿弥陀如来坐像～

○有形文化財の修理

文化財保護条例に基づき登録・指定しているもので有形のものは、その形を維持していくことが重要です。そのため所有者は状況によって修理を行うなど、適切な管理をする必要があります。

今回取り上げる淨真寺三仏堂は、区指定有形文化財であり、堂内に安置する阿弥陀如来坐像は東京都指定有形文化財に指定されています。現在三仏堂の9軀の坐像は順次修理を行っていますが、建物にも劣化がみられ、修理することになりました。平成30年から具体的な修理の検討を行い、令和3年に1棟目の下品堂の修理が終わりました。令和4年度以降も順次修理の計画と工事を行う予定です。

○事業経過

平成30年～31年度	耐震補強案策定
令和2年度	下品堂の耐震補強及び修理設計
令和3年度	下品堂の耐震補強及び修理工事
令和4年度以降	中品堂・上品堂の修理設計 及び工事実施予定

○建造物としての劣化を発見！

三仏堂は3棟とも同じ構造でできています。当初は茅葺の建物でしたが、昭和58年に屋根を骨組みから取り替え、銅板葺きに改築しています。

経年の劣化などにより、建物は外周が外側に開く傾向がみられ、柱と梁の接合部（仕口）に隙間ができています。またこの建物の特徴として、柄（柱に差し込む突起部）が短いことが挙げられ、建物の緩みと相まって、梁が落下する危険度が高くなっていました。（写真1）

○所有者と修理の検討

所有者である淨真寺と協議の結果、耐震補強と劣化修理を行うことになり、耐震診断を行いました。結果、震度6強の地震と風速43m/s（=10分間の平均）の暴風の時に建物が倒壊する恐れがあることが分かりました。そこで、淨真寺では耐震補強工事と修理工事を行うことになりました。

○三仏堂は阿弥陀如来坐像を守る重要な覆い屋

三仏堂は区指定有形文化財でありながら、本来の建物の機能は、安置する阿弥陀如来坐像を風雨から守る覆い屋です。三仏堂の機能と文化財建造物の特徴をそこなうことなく修理するための基本的な方針を以下のように定め、設計と工事にあたりました。設計及び工事は世田谷区登録・指定文化財保存事業費補助金を交付し、宗教法人淨真寺が行いました。

- ・九品仏（阿弥陀如来坐像）を守ることが第一の目的であること
- ・現在健全な屋根を解体する必要は無く、最小の工事範囲で行う補強工事であること
- ・木部を加工することが最小の工事であることが文化財建造物の保存のため重要であること
- ・コスト面の負担が最少であること



写真1 淨真寺三仏堂外観 撮影 清水 裏



写真2 修理前の三仏堂内部 撮影 塚原 明生

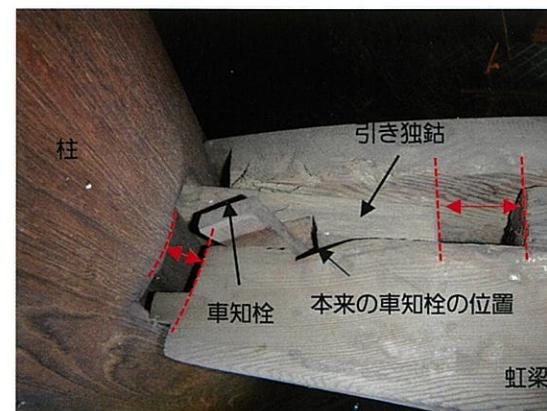


写真3 柱と梁の仕口を上から見たもの。
各部に隙間が空いていることが分かる。
赤色矢印がずれた部分。



写真4 工事のため仏像が壊れないように
頑丈な囲いで養生した。



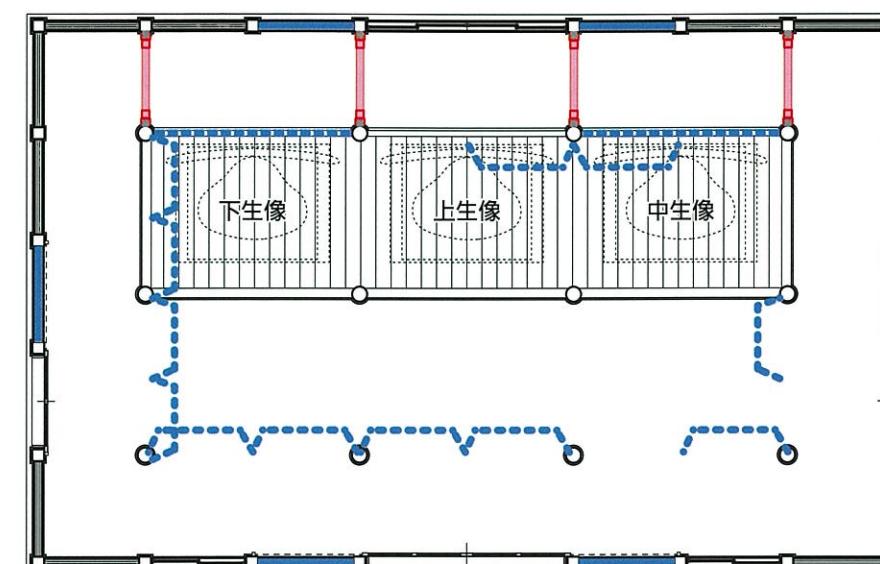
写真5
土壁は劣化部を取り除き、
極力残して修理した（上部垂壁）。



写真6
柱と梁の仕口には補強用のL字金具
を使い、落下的危険がなくなった。



写真7
仏像が安置される内陣の背面に
鉄骨フレームを使った構造補強
を行った。足下の段差を解消す
るため床を設置した。



○文化財の修理は原状を維持すること！

文化財の修理は現状維持が基本で、過度に新しくする事はしません。補強等で新たな部材を使うときは、外せば元に戻る可逆性のある手法を採用します。

これとは別に、腐朽などで材料が傷んでいるときは、傷んだ部分を取り除き、これまでと同種の材料で新しく補います。



一凡例一

- ：合板全面壁（片面）（写真8、9）
- ：合板腰壁（片面）
- ：合板垂壁（片面）
- ：鉄骨フレーム（写真7）



写真8
耐震壁は壁の内側に補強用の下地を組み（写真8）、その上に構造用合板で塞ぎ（写真9）、仕上げに白色のプラスターを塗った。



写真9
今回の工事で新しく加えた木材には「令和三年五月新補材」と焼き印を押し、旧材と区別した。

淨真寺下品中生像（東京都指定有形文化財）の修理

令和2年度から京都で修理していた下品中生像が修理を終え、令和4年3月に淨真寺に戻ってきます。これで、4軀のお像が修理を終えたことになります。引き続き令和4年度から下品上生像が修理のため京都に向かいます。

写真：公益財団法人美術院での修理の様子
(左:関係者で協議を行う／右:修理中の下品中生像頭部)
※令和3年度はコロナ感染症対策のため、修理現場での協議は行われませんでした。写真は令和2年度のものです。



下品中生像の後補の塗料を
はがしたところ



せたがや歴史文化物語

文化財巡り
ワークショップ

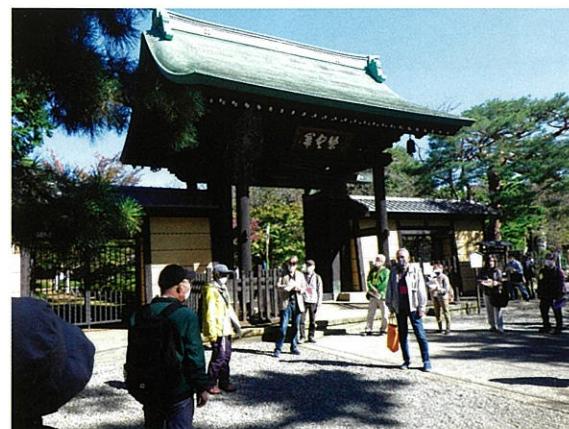
『安政7年3月3日の世田谷の物語』

開催:10月30日(土) 午前10時~午後4時

「せたがや歴史文化物語」は、区内の文化財の魅力を高め、分かりやすくその価値を伝えようとした普及・啓発事業です。各々文化財が持つストーリーを関連付けて紹介したり、ワークショップにご参加の方から集まつた質問をもとに、『なぞなぞブック』を発行しています。

今回は「安政7年3月3日の世田谷の物語」と題して「桜田門外の変」の起こったその日の世田谷村に着目し、世田谷城跡、豪徳寺、代官屋敷を散策しました。

世田谷大場代官の妻・美佐が書き残した日記や、年中行事の古文書を紐解き、大場家住宅に上がって当時の暮らしぶりに思いを馳せました。散策後はワークショップを開き「かつてあったという世田谷城はどんな姿だったのでしょうね」とか「桜田門外の変の日の日記が残っていたとは知らなかった。興味がわきます」などと盛んに意見交換を行いました。



井伊直弼の菩提寺・豪徳寺



代官屋敷表門前で解説

世田谷区文化財解説ボランティア

開催:毎週水曜日

時間:野毛大塚古墳 午前10時から

等々力渓谷 午後2時から

(いずれも約10分程度)

都会のオアシスとして知られる等々力渓谷は、豊かな自然環境と文化的要素から東京都名勝に指定されています。渓谷内には指定史跡・等々力渓谷三号横穴墓があり、近くには帆立貝形古墳として知られる野毛大塚古墳も立地しています。

こうした文化財を解説するボランティアを募集し、令和3年11月から活動を開始しました。現在はスポット解説として野毛町公園内の古墳模型前と等々力渓谷公園の広場にて、定期的に解説を行っています。

ボランティア解説を聞いた方からは、「横穴墓にはどんな人が葬られたのか想像してみた」とか、「野毛大塚古墳から当時貴重だった鉄製品がたくさん見つかったことに興味を持った」などの感想が寄せられました。

一方のボランティアさんは「自分自身の興味関心から地形に富み湧水が豊富な等々力渓谷の解説には、つい力が入ってしまいます。難しくならないように心掛けています」と意気込みを語って頂きました。

雨天時は解説は中止します。詳しくは世田谷デジタルミュージアムのお知らせをご覧ください。



等々力渓谷3号
横穴墓前の広場にて



野毛大塚古墳

大場家住宅特別見学会

開催:12月19日(日) 午前10時~午後4時

重要文化財大場家住宅にて特別見学会を実施し、合計83名の方に見学いただきました。内部座敷の公開とともに、日ごろの文化財の維持管理における取り組みを広く知ってもらうため、かまどの火入れと防火用放水銃の放水を行いました。

かまどの火入れは、屋根に葺かれた茅の維持保全を目的に月に一度行っています。防火用放水銃は地域の大切な文化財を火災から守るために主屋の周囲に設置され、万が一の際に作動するよう定期的に放水を行っています。

参加者には自由に見学いただき、修理保存工事を記録した動画と大場家住宅の紹介動画を鑑賞する方、南側の日当たりのよい座敷でゆっくりくつろぐ方などの姿も見られました。

「木材を使った建築技術がすばらしく、昔の日本家屋はエコそのものだと改めて感じました」、「今まで入ったことなかったので、自分の子供と一緒に見学できてとても良かったです」などと思い思いに楽しまれた様子でした。



火入れ中の
室内の様子



動画放映の
様子

伝統の香

—香りを楽しむひなまつり—

開催:令和4年2月5日(土)

会場:旧清水邸書院

旧清水家住宅書院（通称：旧清水邸書院）は、明治43年（1910）頃の建築とされています。2度にわたる移築を経て、平成25年に区立二子玉川公園内に移築復原されました。近代和風建築の特徴をよく残し、明治末から昭和初期にかけて国分寺崖線に沿って多く存在した別邸の建造物として希少であり、地域を特徴づけた歴史的価値が評価され、平成25年に区登録有形文化財（建造物）に登録しています。

こうした区内の文化財や地域の歴史、また日本の伝統文化をより身近に感じていただくために、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行った上で、「伝統の香—香りを楽しむひなまつり—」としてお香体験ワークショップを実施。小学生親子20組に参加いただきました。講師の指導のもと、数種類の香木の香りを聞き分ける聞香体験や、折り紙で匂い袋を作成したほか、貝合わせやひな人形を展示し、春の年中行事を紹介しました。

参加者からは「はじめてお香をしましたが、とてもおもしろかったです」といった声や、「心がおだやかになりました」、「文化を肌で感じる事ができて感動しました」「分かりやすく、楽しかったです。建物もすてきでした」と感想をいただきました。※2月19日は中止しました。



聞香の様子



展示した貝合わせ

地域の歴史や伝統的文化を次世代に継承するため、子どもたちの郷土学習を進めています。

◎文化財係

学校教育のなかで



土器や石器を手に取って、見たり、重さを量ったり。

体験型学習

夏休み親子で自由研究(勾玉作り、ミニ土器・埴輪作り)

開催：8月21日(土)：勾玉作り

8月28日(土)：ミニ土器・埴輪作り

小学生以下の親子38組を対象に実施。世田谷ではいつの時代から人が住んでいた？など歴史の解説と区内で出土の土器や勾玉を見ながら、実際に手作りしました。「作ってみると難しく、昔の人が作った土器はとてもきれいな形すごいと思った。」など感想をいただきました。

古墳ツアー

開催：11月6日(土)

午前：小学生親子10組 午後：一般20名

区内には多摩川左岸の国分寺崖線上に古墳が多くあり、今回は野毛大塚古墳、等々力渓谷3号横穴墓、御岳山古墳、狐塚古墳の順に巡り解説を実施。「世田谷にたくさんの古墳があることに驚き、世田谷の歴史に興味を持った。ほかの古墳も見てみたい。」とツアーや以外の区の古墳の話にも及びました。

報告会（一般向け）

古墳講演会

開催：10月23日(土) 午後

元区文化財係学芸員の寺田良喜氏に「せたがやの古墳ーどんなところに、なぜあるのか？」というテーマで講演いただき、60名にご参加いただきました。隣室では講演に関連する野毛大塚古墳から出土した埴輪などの出土品展示を行い、受講者からは「埴輪の生産地は？」、「出土品も見ることもできてよかったです」などの声がありました。

遺跡発表会

開催：11月21日(日)

第47回東京都遺跡調査研究発表会を東京都と共に実施しました。この発表会は、東京都下で行われた遺跡発掘調査を報告する会で、世田谷の歴史を感じてもらえるよう世田谷代官屋敷からオンライン配信を行いました。世田谷からは寺田良喜氏「古墳時代の野毛と上毛野」等の報告があり、オンデマンド配信800回以上視聴されました。

◎郷土資料館事業

特別展

「多摩川と世田谷の村々」

令和3年10月23日(土)～12月5日(日)

2年ぶりの開催となった特別展では、渡船、水運、漁業といった視点から、近世から近代にかけての多摩川と世田谷の村々のかかわりについて紹介しました。会期中には調布市郷土博物館と連携したギャラリートークを行いました。



ミニ展示

「社寺の守護—信仰と厄除けー」(6、7月)、「すこしごくらしー子どもの学び・遊び」(7～9月)、「四季耕作図を楽しもう」(12、1月)

社会科見学・ワークショップ

郷土資料館・代官屋敷の社会科見学を実施しました(申込み31校)。見学は密を避けてクラス毎に回り、古民家や代官、ボロ市、昔のくらし・道具の解説を行いました。出張授業では、世田谷の移り変わり(人口・土地利用・交通)、学校周辺地域の歴史、農家のくらしについて昔の写真や地図、道具を用いて解説しました。

また、区内在学小学3年生～6年生を対象に、夏休みワークショップ「折り染めミニ掛け軸作り」を開催しました。親子、姉弟が参加し、折り染め、ミニ掛け軸制作、昔の道具体験を行いました。



折り染めミニ掛け軸作り



社会科見学

◎民家園事業

企画展

「くらしの中の木綿」

令和3年11月3日(水・祝)～令和4年1月1日(土・祝)

次大夫堀公園民家園において、木綿をテーマに、江戸後期から昭和30年頃までの世田谷の農家の衣生活を、文書や当時の着物等から紹介しました。旧城田家では、くらしの中で多様に使われていた木綿の衣類等を配置し、かつての「木綿のあるくらし」を再現しました。



旧城田家で企画展展示風景



社会科見学の解説風景

郷土学習事業

区内小学校を対象に民家園をフィールドとした解説や体験学習を行いました。

社会科見学・解説

社会科見学では小学3年生を対象に、区内より移築・復元した古民家の概要や農村の景観、昔の暮らしについて解説しました(区立24校、私立3校)。

「農家の暮らし」に関する体験学習

次大夫堀公園民家園で古民家や道具に触れながら、世田谷の歴史文化について詳しい学習を行いました(区立6校)。



収蔵資料を活用した鍬の体験風景

令和4－5年イベントカレンダー（予定）

	文化財係	民家園 (主なイベント)	郷土資料館
令和4年4月		『暮らしの歳時記』(農事暦・民間暦) 年間を通じて、昔の世田谷の農家の生業や年中行事を四季折々に再現展示	
5月			野外歴史教室
6月			
7月	夏休み自由研究 伝統建築		
8月	工匠の技の体験(茅葺、左官) 勾玉、ミニ土器、埴輪づくり		
9月			
10月	伝統の香り お香ワークショップ		
11月			社会科見学、出張授業(通年)
12月		企画展「農村と草花」(仮称) かつての暮らしを支えてきた草花から世田谷の風景を振り返る	子どもたちの学習支援として、代官屋敷見学時の解説、学校に出かけて区の歴史や昔の暮らしに関する授業をおこないます
令和5年1月			
2月	大場家住宅・旧清水邸書院	収蔵資料展「畑と農具」(仮称) かつての世田谷における農具の特徴を紹介	
3月	ひなかざり		

★文化財係からお知らせ

※新型コロナウイルス感染拡大の状況等により各種行事は中止または延期となる場合があります。

区役所本庁舎改修工事のため、弦巻3-16-8に移転します。令和4年5月23日（月）予定

★郷土資料館から改修工事に伴う休館のお知らせ

期間 令和4年4月1日（金）－令和5年3月31日（金）

休館中はご不便をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願ひいたします。

★民家園係からお知らせ

次大夫堀公園民家園を拡幅し、昔の畠を再現します(麦・野菜・桑などの世田谷にみられた作物を活用したイベントも予定)。

博物館がお手元に！「世田谷デジタルミュージアム」

世田谷区では、区内の豊富な文化財や関連資料をデジタルアーカイブ化し、誰もが気軽に貴重な文化財に触れることができる「世田谷デジタルミュージアム」を公開しています。「おすすめデジタルコレクション」、民家園の行事案内や刊行物の紹介なども行っています。

「ジュニア講座」では児童・生徒向けに動画や読みものを公開しています。今年度は動画「世田谷の歴史（後編）」を作成しました。



世田谷デジタルミュージアム

検索

クリック



世田谷デジタルミュージアム
SETAGAYA DIGITAL MUSEUM



サイトへのアクセスはこちら⇒
<https://setagayadigitalmuseum.jp/>



◎ポケット学芸員

ポケット学芸員は、郷土資料館や民家園で展示されている資料の解説や関連画像を配信するスマートフォンアプリです。郷土資料館休館中も、ポケット学芸員で展示の一部を引き続きお楽しみいただけます。